

ワクワクする暮らし

完成現場報告

島田市／『暦の家』

文・写真／コロラボ 山崎健治

新緑が鮮やかな春も足早に過ぎ、山の緑も若草色から深みのある初夏の色へと変わってきました。私たちの暮らす地域は身近に山の景色を見ることが出来るので、季節の移ろいは山の変化でもなんとなく感じています。特に春の芽吹きや開花の季節は毎日の変化も大きく、通勤途中のちよっとした楽しみにもなっています。こんな景色を毎日家から見ることができたら…なんて、多くの人が一度は考える憧れの暮らしではないでしょうか。今回ご紹介する『暦の家』は、そんな憧れを毎日の暮らしにしたお宅で、緑に包まれた大自然の中に木の家を計画しました。この場所を選んだ理由や暮らし始めた感想、生活と自然との関わり合いなど、今回写真撮影にお伺いしてお話を聞かせていただき、改めてOさんご夫婦の求める暮らしを知ることができました。山の景色を取り込んだ間取りや建築的な工夫を始め、Oさんの豊かな暮らしぶりをお伝えしたいと思います。





右) 緑いっぱいに囲まれた山の斜面に建つ『暦の家』。素焼調の瓦と杉板で外観をまとめ、山の緑の中での経年変化を楽しむ事の出来る外観となった。ご主人と奥さんの車の色もポイントとなり、明るく楽しい雰囲気伝わってくる。

左) キッチンから広間のガラス窓と和室を眺める。家の中は少し暗めで落ち着きのある雰囲気となり、格子や障子などを使いながら陰影が楽しめる空間となった。和室は広間より一段高くし、他の部屋とまた違った雰囲気が味わえる場所にした。



魅力は人と人とのつながり

施主のOさんとの出会いは今からちょうど5年前。毎月行っている木の家相談会に参加してくれました。自分たちの暮らしのイメージをもたれ、そのイメージにあったワクワクする家をつくりたいと話していました。木をふんだんに使った家に住みたいと考えていたようですが、どちらかというとログハウスに興味があり、非日常的な空間をつくりたいと考えていたようです。相談会の後も何度か木の家の見学会に参加され、ログハウス同様に木をふんだんに使った板倉構法について理解をしていたが、同じ木でも地域の木材を利用する構法に共感していただきました。Oさんは構法や間取りなどのイメージと合わせて敷地探しも行い、家だけでなく敷地にも「ワクワク感」を求めてイメージにあった土地を見つけていました。「最初に訪れた時からここが気に入っていました。」とOさん。でも、仕事の事や子育ての事、買い物や病院は…など、気になり出せば切りがなく、どんどん不安になったと聞きます。通常ならここで諦めるのですが、Oさんご夫婦は逆に、考えれば考えるほどこの風景が忘れられず、どうやったら不安要素を少なくしていけるだろうと考えるようになったと話していました。何度か敷地に足を運んでいるうちに近所の方が声をかけてくれ、子供の学校や買い物

の事などを教えてくれ、地域の行事にも誘ってくれたと話していました。そして、この土地に実際に住みこの土地を管理しているFさんがとても親切に対応してくれ、不動産屋としての立場ではなく、ここに暮らす住民としての立場でアドバイスをもらい、不安要素が少しずつ少なくなっていくようです。近所の方々の温かい対応やFさんの心強い存在が大きく、現代では薄れていく地域のつながりを感じる事でよりこの土地の魅力が大きくなり、ここに暮らす実感が湧いてきたと伺いました。

敷地も決まり家のイメージも固まりかけた頃、Oさんご家族はお仕事の関係で1年半ほど海外勤務をする事になりました。限られた期間でも住み慣れた日本を離れるのはとても不安…でも家族が離れて暮らす事は考えられなかったので勇気を出してと奥さん。でもこの1年半の経験は大きく、むしろ日本の暮らしや住まいに改めて興味を持ち、四季を心地よく暮らす伝統的な工夫などに惹かれていったと話してくれました。帰国後すぐに連絡をいただき、1年半のプランクを感じさせないほどスムーズに打合せを重ね空間イメージをカタチにしていきました。



和室のコーナー窓） 4畳半の和室には、東と南に向けたコーナー窓を設置した。家の中で一番緑に近い場所となり、葉の一枚一枚を間近で感じることが出来る。掃出し窓を開けると心地よい風が流れ、これからの季節はとても気持ちの良い場所になりますね。



格子網戸） 広間の大きな開口窓に格子網戸を設置した。格子網戸の開け閉めで印象が違い、季節や天気、気分などに合わせて使い分けしている。広間は2階から葺き下ろした大屋根を利用して開放的な吹き抜け空間となり、まっすぐに伸びた薪ストーブの煙突がアクセントになっている。



南の窓） 広間につながって6帖ほどのデッキスペースを設けた。デッキの外には雑木林が広がり、緑を身近に感じさせてくれる。広間の窓は幅1間のガラス窓が2枚あり、その上には同じく幅1間のハイサイド窓を設けている。デッキ屋根のガラスから光が降り注ぎ、冬の季節は広間まで明るく暖かくしてくれる。



東の窓） 湖越しの少し離れた山の景色を切り取る為に縦長の窓を配置した。4つに仕切られたガラスは、下の左側の一箇所が開閉出来る仕組みなりその他はFIX窓になっている。腰窓はソファからの眺めを考えて少し低めに設置し、意匠と合わせて手摺を設けている。暮らし始めて一年数ヶ月経過するが、毎日山の景色が変わり、日々の生活を豊かにしてくれている。



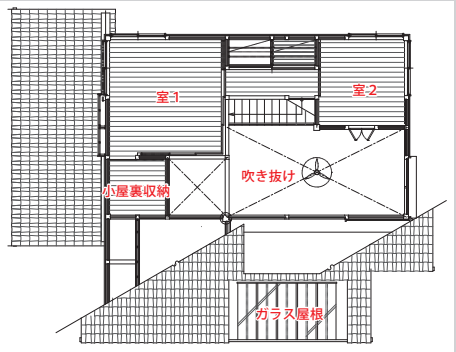
施主のOさんが昨年の夏に撮影したベストショット！大きなプールがデッキいっぱいに入れられ、楽しさが伝わってくる写真ですね。

して、木でつくる窓に格子網戸を合わせて制作しました。太めの格子は閉めるとガラツと雰囲気が変わり、適度に落ち着いた空間をつくり出してくれます。また、夏の日差しを遮りながら風を取り込み、涼しい場所をつくってくれます。格子網戸はガラス窓の内側にあるために汚れが付きにくく、掃除機のブラシで簡単にお掃除できると奥様に好評です。

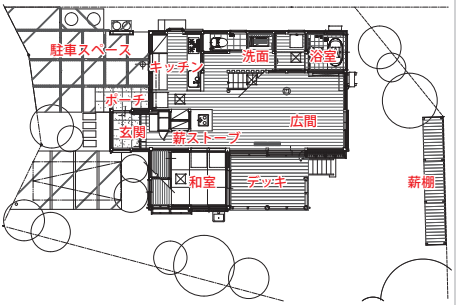
広間に隣接して小上がりの和室も設けました。広間と和室でデッキを囲む配置とし、どちらの部屋からでもデッキに入出力できるようにしています。また、和室の窓からはダイレクトに南側の景色を見ることが出来る。広間とはまた違った静かな印象の窓になったと感じています。この場所にゴロツと昼寝…気持ちよさそうですね。

見える景色に合わせた窓配置

今回の計画の最大のコンセプトは、自然との一体感とワクワク感のある暮らし。Oさんの選んだ敷地は元々別荘地として開発された土地の一部で、敷地全体に傾斜がありました。傾斜を利用してスキップする間取りの案もありましたが、ワンフロアで一体感のある空間に家族が集まるイメージを優先して、南側の基礎を高めに立ち上げた計画とし、1階にいても2階にいるような浮遊感のあるプランとなりました。プランの基本となったのは、どの方向にどんな景色が見えるのか？ということ。東の窓からは湖越しに少し離れた山の斜面の緑が見えるため、山の形が綺麗に見えるように縦に切り取った窓を設けました。窓はソファに合せて腰壁を設け、ソファに座ってちょうど良い眺めとなるように配置しました。南の窓からは近くに生い茂る雑木の緑が見え、そのまま出て行って自然と触れ合う事ができるように大きな掃き出しのガラス窓を設けました。窓の外にはベランダのようなウッドデッキを設け、外と内の中間的な空間をつくりました。デッキにはガラス屋根を設け、この場所に子供用のプールを出したり、休日にはちゃぶ台を出して朝食や昼食を食べ、家族皆で贅沢な時間を楽しんでいるようです。今回初めての試みと



2F 平面図



1F 平面図・敷地図

仕様内容

家族構成	家族4人
敷地面積	387.33㎡
建築面積	79.77㎡
延べ床面積	101.07㎡
構法	板倉工法
屋根	瓦葺き 丸栄陶業 カバラスKS40
外壁	杉赤身板 大和貼り 真鍮釘打
外部建具	木製オリジナル建具 ナラ、ヒバ ペアガラス、アルミサッシ(ペアガラス)
天井仕上	化粧野地板現し 杉本実実張り 厚30mm 杉相ジャクリ板張り 厚12mm
壁	青森ヒバFJ 本実板張り 厚15mm 落し込み板現し 厚30mm現し
床	漆喰塗、青森ヒバFJ 本実板張り 厚15mm
内部建具	杉本実板張り 厚15mm、タイル300角貼り オリジナル木製建具
キッチン	ステンレスヘアライン天板オリジナルキッチン
洗面化粧台	オリジナル洗面化粧台 洗面器：TOTO SK6
浴室	オリジナル浴室
設備	床・壁：サーモタイル300角貼
設計者	山崎健治
施工	有限会社こころ木造建築研究所
竣工	平成27年2月



キッチン／木とステンレスでつくったシンプルなキッチン。設計段階でも奥さんと何度か打ち合わせをし、収納場所や大きさ、可動する棚などを考えて制作した。



木のお風呂／これだけのロケーションならやりの全面窓。上部は開閉でき、下部はFIX窓としている。ブラインドはあるが、ご夫婦もご友人もこのまま入浴するとか。でも納得の景色です。



玄関／玄関正面には縦長の窓を設けた。板倉の壁を切り抜いたようなピクチャーウィンドーとなり、窓の景色と杉板の陰影が綺麗な玄関となった。玄関建具には栗材とアイアンを使用した。栗の框に目地をとった栗の板を入れ、重厚で安心感のある玄関建具となった。



ハンドメイド薪ストーブと薪棚／コロラボではお馴染みとなったケンズメタルワークさん制作の薪ストーブ。ボックス型のシンプルな形状で炉内も広く、広い天板なども利用して、クッキングなどに向いている薪ストーブ。薪棚は斜面に沿って段々になっている。今年はこの薪棚をいっぱいになりたいですね。



アイアンの階段／広間の吹抜け空間に掛かるアイアンの階段。今回もアトリエプラトーさんに制作をお願いし、綺麗で精度の高い階段を作ることができた。お子さんがまだ小さいので階段手摺にはメッシュが取り付けられているが、これはOさんご夫婦が取り付けしてくれた。木と鉄で色を変え、部屋の雰囲気損ねることなく上手に取り付けてくれている。

ハンドメイドの薪ストーブとアイアンの階段

広間は2階の屋根を葺き下ろした大屋根空間を利用して吹き抜けとし、キッチンから比較的近い場所に、クッキングも楽しめる天板の広さと炉内の大きさが特徴のケンズメタルワークさんのハンドメイドストーブを設置しました。昨年には斜面に沿って薪棚もつくり、なかなか印象的なカタチで風景にもマッチして溶け込んで見えます。まだまだ薪集めに苦労していると聞きましたが、ここの生活を支える大切な資源。今年は薪づくりグループの活動も盛んになってきたので頑張つて集めて欲しいと思います。

薪ストーブと同じアイアンでつくられたものと言えば広間の中心にかかる階段。今までも何度か制作してきましたが、今回の階段はそれ自体で自立しなければいけない構造なので、いつもより厚みや幅を持たせ、形状や取り付け方も工夫しています。制作していただいているアトリエプラトーさんは毎回頭を悩ませていますが、今回もこちらの希望通りに制作してくれ、現場での精度も抜群です。まだお子さんが小さいので、Oさん自作で階段に綺麗にメッシュを取り付けていたり、階段下のスペースも上手に使っていて、お気に入りになった楽しい暮らしが伝わってきます。

純粋な思いが現れた家づくり

日々の暮らしを考えた時、家に求める事は人によって様々だと思います。動線や収納、家事や子育てを中心とした効率性や、ランニングコストと快適性を考えた省エネルギーな住まい、また、災害に対してシェルターのような安心を求める方も多いと思います。それらは家づくりにおいて誰もが求めるものでもあり、むしろ当たり前として備わっていて欲しい性能や機能だと言ってもいいかもしれません。その上でOさんのように、自然を身近に感じて暮らしていきたいとか、ワクワクする家、たくさんの人に来てもらって楽しみを共有したいと言った要望は、何のために家をつくるのか？これからの自分たちの暮らしをどれくらい楽しいものにしてくれるのか？といった、家づくりの本質的な部分を考えさせられる問いに答えているように感じます。Oさんの家を訪れ、一步玄関に入った瞬間から気持ちの良い家だと感じます。これは景色や素材だけが良いのではなく、Oさんご夫婦の純粋な思いが現れている家だからなのだろうと思います。

“家を建てたら何をしたいですか？”難しい事は考えず、もう一度純粋に家づくりを考えてみるのもよいかもしれませんね。